

アドバンスドツリークライマー試験内容

改定：2017/9/13

スローライン

- ・スローラインのスロー回数は5回まで。
- ・あらかじめ設定されたアンカーポイント2カ所にスローラインをセットする。それ以外はポイントにならない。
- ・同じ高さのアンカーポイントは、1回のみ有効。
- ・2カ所のアンカーポイントは、12～14m（12点）と8～10m（6点）。
- ・DRTをセッティングできる状態にスローラインをしなければならない。枝が内包した状態では認められない。セッティング可能な状態になっていれば、その部分以外のスローラインは他の枝にかかった状態でもよい。
- ・アンカーポイントのマーキングより内側（マーク上含む）であれば、股でなくてよい。修正はスローライン操作のみで行うことができる。
- ・スローラインのポイントが認められた1カ所はフリクションセーバーを使用し、ロープセットを行う。（アンカーの高さは問わない）
- ・ロープセットはDRTとして使用可能な状態にロープをセットし、ロープ両端を同時に地面に接地させる。（7点）
- ・スローバッグ、スローライン、ロープ、ハウススリーブ等、すべて使用数に制限なし。但し、同時に使用できるスローラインは2本までとする。（地上にあるラインは本数に含めない）
- ・制限時間は、試験官の開始合図から10分までがスロー可能時間で、20分までにスローラインとロープのセッティングを行う。スロー可能時間終了は試験官より合図がある。
- ・樹上のギア類回収は上記20分に含めないが、トータル25分以内に樹上にギア類がない状態にすること。トータル25分を超えて樹上にギア類が残っている場合は失格となる。
- ・1スローでスローライン操作により、複数アンカーを取ってもよい。（1スローとカウントする）
- ・スローにより、直接規定のアンカーポイントに入らなかった場合でも、スローライン操作により修正・セッティングを行うことができる。
- ・スローラインセット・ロープセットは、試験官の確認を受けることにより、ポイントとなる。
- ・スローコールが無い場合は失格となる。

ツリーポート

- ・あらかじめセットされた2つのスローラインを使用する場合と、受験者がアンカーポイントを決める場合がある。
- ・ロープセッティング完了後、試験官の合図から試験開始とし、ロープセッティングまでは試験に含まない。
- ・指定の樹木間の高さ（3～5m）に、1人でツリーポートセッティングを行う。
- ・あらかじめセットされたスローライン以外のロープセッティングも可。
- ・ツリーポートは、一方は付属のストラップ、もう一方はロープによる延長とする。
ロープ延長の方法は、TCJ認定のものとする。（スキルアップ講習で指導している方法）
- ・試験時間は試験官の開始合図から30分で、時間内にセッティング完了を受験者が試験官に報告する。
（完了報告は樹上でも可）
- ・ストラップの固定はターンバックルの中を通した後、ハーフヒッチして末端処理を施す。
- ・ツリーポートは、水平になるようセッティングする。

ツリーレスキュー

- ・ 樹上 5 m に要救助者があり、あらかじめセットされたスローラインを使用し、DRT によりアドバンスドレスキュー（相手のロープに乗り移る方法）にて救助を行う。
- ・ 制限時間は、試験官の開始合図から 15 分とし、救助した要救助者のカラビナを外し、完了報告までとする。
（要救助者のみで搬送できる状態にする）
- ・ 受験者はビレイ他、救助の際に必要な事柄を周囲に指示する必要がある。
- ・ 受験者が周囲に指示して行ってもらえる救助行為はビレイのみであり、ビレイの早さ、位置等、詳細に指示する必要がある。
- ・ 受験者はクライミング時のセーフティーノットを作らなくても良い。ただし救助作業中は必要。
- ・ 乗り移る際に使用するループは、ライフサポートの 23 k N 以上かつ 8mm 径以上に限る。
- ・ 受験者がクライミングした DRT は樹上に残してもよい。

アドバンスドツリークライミングスキル

- ・ あらかじめ設置されているスローラインに、SRT ロープセッティング、SRT クライミング、樹上にてセカンドアンカー・スロー&DRT セッティング、DRT へ切り替え、ベル鳴らし 2カ所、SRT へ切り替え、クライミングダウン、クリーンアップまでのすべてを行う。また、あらかじめ設置されているスローラインは残すこと。
- ・ SRT 用ロープは 150ft 以上のロープ、DRT 用ロープは 120ft 以上のロープを用意すること。
- ・ SRT ボトムアンカーはレスキューボトムアンカーとする。 ※2015 年より試験対象
- ・ セカンドアンカーポイントは、指定されている場合と指定されていない場合があり、指定された場合はそのアンカーポイントしか認められない。指定有無は当日の説明による。
- ・ 樹上で DRT セッティング後、その DRT が地上までクライミングダウン可能か、必ず確認する必要がある。
- ・ 樹上での作業時（スロー・ロープセッティング・ベル鳴らし等）は、必ずランヤードにより確保し、体の安定を保つ。
- ・ SRT→DRT,DRT→SRT の切り替え時に、デ이지ー等のバックアップがない場合は失格。
- ・ ロープの傾きが 45° を超える（45° より水平に近づく）と、試験官の判断により、1 回目は警告（-10 点）、2 回目は失格となる。
- ・ 基本制限時間は試験官の開始合図から、男性 40 分、女性 50 分とし、クリーンアップ完了までを行う。
ただし環境により制限時間の変更あり。またクリーンアップは、あらかじめ設置されていたスローライン以外のものが、樹上に残っていない状況であれば完了と認められる。
- ・ 制限時間の 5 分超過までは試験続行可能。この間にすべての内容を行う必要があり、行えなかった場合は失格となる。
- ・ ロープ撤収時のロープ落下は減点となる。
- ・ 使用するギア数は制限しない。ただしレクレーションで認められたものに限る。

【全体注意事項】

- 各試験項目の配点は次の通りであり、各々合格点数に達していない場合は不合格。
スローライン25点（合格点15点）・ツリーポット20点（合格点12点）
ツリーレスキュー15点（合格点9点）・アドバンスドツリークライミングスキル40点（合格点24点）
- 参加者同士での技術相談禁止。
- 参加者の他人批判禁止。
- ギア他、物を落下させた場合は失格。ただし、インジャリーフリー*のものはその限りではない。
- 試験エリアに入って開始後はギアを取りに出ることはできない。
- 試験中の質問は認めない。
- 時間はいつでも聞くことができる。
- レクリエーションツリークライミングで認められたギア・技術のみで行う。
- 制限時間内に完了しない場合は失格。ただし、スローラインは失格とならず制限時間内の点数が認められる。
- オフロープは試験中止かつ失格となる。
- ロープの傾きが45度を超えた（45°より水平に近づいた）場合、試験官の判断により、1回目は警告、2回目で失格となる。
警告の場合は、安全な状態まで戻りやり直す。警告の前に自己申告し、やり直せば警告とならない場合もある。
- 樹木の損傷は、折れた箇所径10mm未満減点なし、10~25mmは-2点/本減点、25mm以上は失格となる。
- 必要なコールが、適切なタイミングでない場合や試験官に聞こえない場合（必ず試験官のOKコールを受ける）は減点となる。ただし、スローコールがない場合は、失格となる。
- 動作は確実に試験官に伝える。試験官の返事によりポイントとなる。
- 審判に抗議をした場合は失格。
- 2016年よりランヤード使用が推奨されたこととともない、本試験においても作業時の体の確保はデイジーロープからランヤードへと変更する。ただし2016年中に限り、体の確保でのデイジーロープ使用を認める。
- 2016年からのDRTシステムのカラピナ接続部のダブルフィギュアエイトノットがダブルフィッシャーマンズループへの変更とともない、本試験においてはDRTシステムのサドルへのカラピナ接続部にダブルフィギュアエイトノットの使用を認めない。

*インジャリーフリー：ケガの可能性が極めて低いもの

（スローライン・手袋・ハンカチ・セーフティグラス等。ペンはインジャリーフリーではない）

【ギアチェックリスト】

使用可能ギアはレクリエーションで認められているものであれば、下記以外のものも使用することができる。また下記数量以上に使用することもできる。ただし、個々の試験で制限されている場合はこの限りではない。

- クライミングサドル ヘルメット DRT可能ロープ120ft以上 DRT・SRT両用ロープ150ft以上
- フリクションセーバー2個 トリプルアクションオートロックカラピナ4個 フットループ
- ランヤード アセンダー ディセンダー エイト環 スローライン2セット
- ブルージックループ23kN以上1本 ツリーポット ツリーポット延長セット用ロープ30ft程度以上
- SRTレスキューボトムアンカー1式（前述のギア以外で用意）



TREE CLIMBING® JAPAN

ツリークライミング®ジャパン

〒480-1201 愛知県瀬戸市定光寺町 323-4

Email info@treeclimbingjapan.org/ TEL : 0561-86-8080 FAX : 0561-86-8580